



名家手簡
七集
上

千
259
13





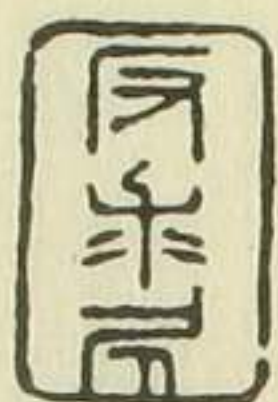
七

集

香雪先生鈞摹

名邕平簡

天寧閣藏板



清



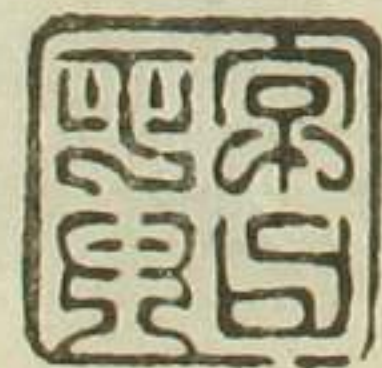
海

海

同本

張

張

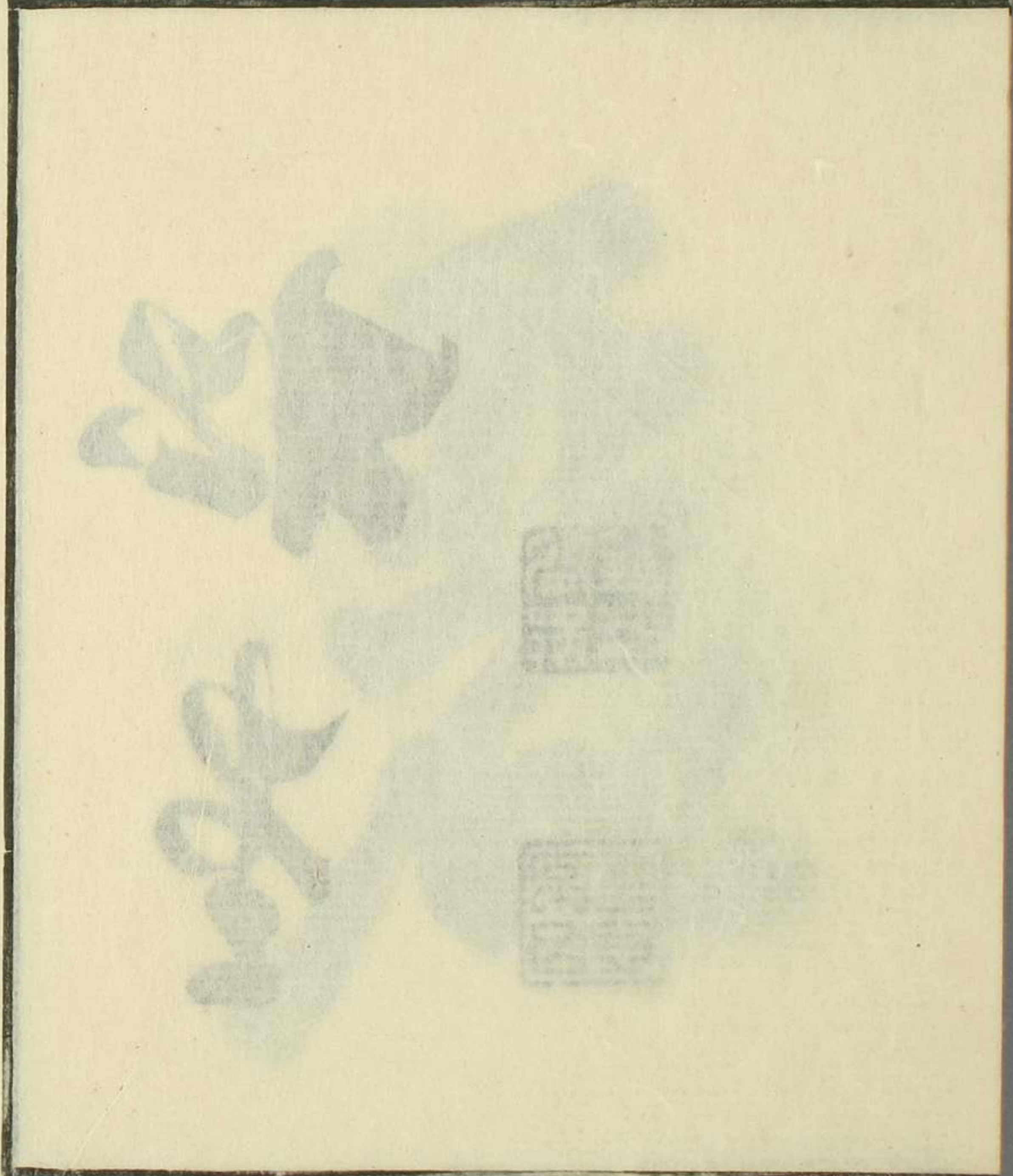




名家手簡七集目錄

上卷

大内熊耳	釋維明	永田觀鶯	稻若水	中村暢齋	朱舜水	山縣周南
	中江常省	蔭田暢齋	釋百拙	柳川三省	越雲夢	湯淺常山



下卷

柴野栗山

西依成齋

古賀精里

賴春水

尾藤二洲

西山拙齋

市河寬齋

龜井南冥

塚田大峯

岩瀬華沼

司馬江漢

土族

小倉氏

山縣周南

名孝孺字次公稱少助長州萩人仕國侯
寶曆年間六十三歲卒

小倉氏

Handwritten calligraphy in cursive script, likely a copy of the text on the right page, including the name 山縣周南 and the biographical details.

華語不字年西純
相親海有方何方也
法入字の如る午の道
一折こ一徳と為所竟
多入は句成市有二三及
只物女とばおるくまう

宗のよ父とあらんや
穠奈二袋家入のめ
口相親海有方何方也
才欠一母割りなまぬるよ
万如多とていふかたぬの
こりな半切と兼る
やうと

文 孝平 振山 孫少所

Faint bleed-through text from the reverse side of the page.

湯淺常山

各元禎字之祥称新兵尉備前岡山人仕國侯
南郭門人七十四卒

子 孝平

孫

鳴るる事なる事なり且咽痛を症
しる事多し得る事少しお替はる事多し
物に能く守る事多し玉に海を渡る事多し
此の事多し其の事多し其の事多し
うらやまの事多し其の事多し其の事多し
一任の事多し其の事多し其の事多し

福井とあるは組内は絶妙なり
其の各別一谷と山と其の中は
やまといふは此の山を説く
お伝とて此の谷とて山を説く
こゝに 権将とて形物を説く
よのよといふはこゝの山を説く
よのよといふはこゝの山を説く
よのよといふはこゝの山を説く
よのよといふはこゝの山を説く
よのよといふはこゝの山を説く

一合舟の定解

舟主 曰るはこゝの舟は
古語申すに舟は舟なり
舟とは舟なり舟は舟なり
舟とは舟なり舟は舟なり
舟とは舟なり舟は舟なり
舟とは舟なり舟は舟なり
舟とは舟なり舟は舟なり
舟とは舟なり舟は舟なり
舟とは舟なり舟は舟なり
舟とは舟なり舟は舟なり

こゝの舟なり

朱舜水

名之瑜字魯瑛謚文恭明國浙江餘姚人避亂歸化客于水府天和二年卒於江戶駒籠第年八十三

家藏

別事兩三日耳尚覺遠絕

惠我名花數種遂如親挹

芳容 勉亭碑文已草就欲先奉

上公閱過然後送 弘文公未病甚不他脫

稿天霖幸那玉過齋常 請

大教過蒙 垂念感刻無盡為容瞻頌

尊公尚如何也并奉 叩啟

通設野大先翰史

閏月二十三日
之 初 拍 音

復

越雲夢

名正珪字君端二号神门叟曲直瀬氏称養安院
江戸人祖速門人仕幕府延享三年六十一卒

此口良福系云云
徳主来ん云云唐詩
已迄云云
心云云

排律云云
口云云
云云云云
云云云云
云云云云

三ノ目
 乃之五ノ子鱗排
 律之六ノ子公
 本之七
 茶之八
 地之九

中村揚齋

名之欽字敬甫祿七方尉門後祿仲之郎
 平安元禄十五年七十四卒
 小山林堂

乃之五ノ子鱗排
 律之六ノ子公
 本之七
 茶之八
 地之九

田舎の海は青い
うねりも穏やか
波もあつた
うねりもあつた
うねりもあつた

小原 忠房
信長

信長

柳川 滄洲

始称向井名三省字魯甫攝州人水戸順菴門人
享保十六年六十六歳卒

全

本月七日

沙皇浦

星下海

巧

あつた 荆織 文先 以
心 坊 作 石 石 石 石
石 石 石 石 石 石 石
石 石 石 石 石 石 石
石 石 石 石 石 石 石
石 石 石 石 石 石 石

石 石 石 石 石 石 石
石 石 石 石 石 石 石
石 石 石 石 石 石 石
石 石 石 石 石 石 石
石 石 石 石 石 石 石
石 石 石 石 石 石 石

之德河能作此
萬物之始也
是之謂之詩經
同到千多記少
歌之一下乃樂

五言一兩擇
古事之始也
何如王仲

梅川之省

六月九日

筆

後

多可了因坐笑

悟心

福

若水

名宣義字彰信京師人唱物產學
元祿年間卒

月堂公藏

新季之水吉祥不可為也

登涉操嫌好而迎陽

日出成甘恐悅以本下

伊在汝也書通

旨各也也道也然言不

無恙加年仕以年甫之少祝詞中上座尊在如
新正堂不舊痛以鄙札中上座尊私便及
韓客工未尋以故有之似能一上座尊也
涉月以故有之云云以故共飲飲少在在
城都滞留了以無事坐其上逢場工所出以
人數點發世之競唱酬以故相讓以之閑暇之
待以四之晚景之長身有りと所出以の共

再問仕事 然亦殊多之於此共轉
人ノ様子 事々之下官ノ者之度目擊仕
彼中ノ風俗 推知仕大幸計り之を幸甚也
幸甚也 亦以之可也 甚佳也 幸甚

稻若水

幸甚

正月十三日

筑後守様

幸甚也中

釋

百拙

名元養号釣雪華菴黃檗派僧住洛西
海雲山法藏寺能詩書画

小野田氏藏

新正七日
月七日
如
御

中
事
御
如
御

長江一水自西來
浩氣凌雲志未衰
大業成時名亦著
功成身退是吾歸
如夢一川流水去
何處青山尚自留

長江一水自西來
浩氣凌雲志未衰
大業成時名亦著
功成身退是吾歸
如夢一川流水去
何處青山尚自留

仁、大徳、之、心、之、心、之、心、
心、心、心、心、心、心、心、心、

二月十日

三書

勝回、心、心、心、心、

永田觀鶴

名忠原字俊平一号東臯黎祁道人
京師人能書

小山林堂

一可、乃、書、法、之、心、
通、心、心、心、心、心、心、
心、心、心、心、心、心、
心、心、心、心、心、心、

永田
草心山津三
只書法乃乃乃
高妙乃乃
乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃

蔣田暢齋

各器字必器稱龜六
伊勢人善書

家藏

此物之出諸君年乃
意沛安和正法在
除字年打也此乃
和者及正也乃乃

とて出立下 幸手夜夜
此扱は幸手船より
目出度事なり
一ツの世中出立あり
若し付種何とせ
けりもて海門色に華

便何とせよ
官事し 事務
お難い事なり
十日七
和介様
とせ

釋

維明

名周奎号羽山住京師相國寺中光源院
善畫梅文化中寂

逢原堂藏

無梅辱相息增所
清寧寺寺多先日
以先臨寺地為
名所難之獨畫之

深之厚也之味之純也
之德也之德也
語為持之
早中
之也
有目如了得
如

以佳山乃云子也

六之共之日

佐未花柳

先深地

玉卷

中江常省

藤樹季子稱弥三郎後改江西文内

小野田氏

中江常省

藤樹季子稱弥三郎後改江西文内

藤樹季子稱弥三郎後改江西文内

藤樹季子稱弥三郎後改江西文内

藤樹季子稱弥三郎後改江西文内

毎日の事々々
 常々此の如く
 好むことなし
 居るに似たり
 可なり
 此の如く
 此の如く

大内熊耳

名承裕字子綽稱忠孝夫陸奥三春人
 住江戸安永五年没年

永く此の如く
 年々此の如く
 此の如く
 此の如く
 此の如く

本一五之抄一七

三二七

カクハ十カクハ三カクハ三カクハ
カクハ三カクハ三カクハ三カクハ
カクハ三カクハ三カクハ三カクハ

左系百五下抄方内抄三

